

【開催報告書】



## 「まちづくり活動連続講座」

### 第9講 都市計画からみたまちづくりを考える

日時：2019年9月19日（木）  
 14:00~16:00  
 会場：東京都生協連会館 会議室  
 主催：東京都生協連・（一財）地域生活研究所  
 参加人数：23名  
 パルシステム東京/東都生協/ふれあい医療生協  
 /東京都生協連/地域生活研究所

人口減少・高齢化が進むなか、これまで成長し拡大していくことが前提だった都市は縮小し小さくなってきています。都市の変化に私たちはどう向き合うのか、またその変化で問題となっている空き家・居住問題について、第1講から第8講までの福祉の視点から考える「まちづくり」とは切り口を変えた「都市計画」の視点でお二人からお話をお聞きしました。

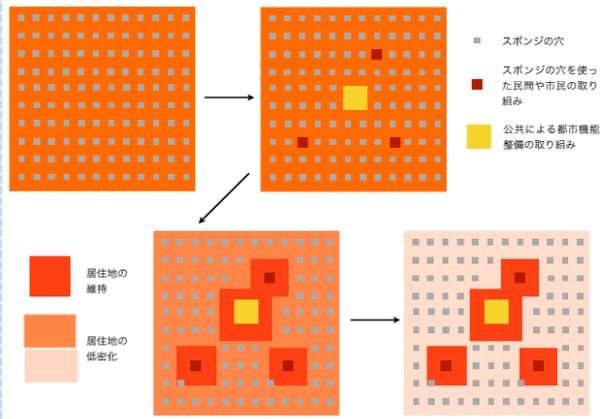
あいば  
 響庭 伸さん

### 「都市計画からみたまちづくりを考える」

（首都大学東京 都市環境学部 都市政策科学科 都市環境科学研究科 都市政策科学域 教授）



#### 人口減少時代の都市計画



都市人口のピークは過ぎ年々人が減っていくにつれ、街には空間が現れていきます。それは空き家であったり閉店した商店街であったり様々で、その空間の現れ方をイメージすると「スポンジ」に似ていることから、「都市空間のスポンジ化」と表現しています。これからの都市計画の考え方として、「スポンジ」を完全に埋めるのは無理ですが、この現象に逆らわずそこに住む人、また関わる人とゆっくり信頼関係を作りながら、その穴を少しずつ民間や市民の取り組みで埋めていくことができることのひとつです。「まちづくり」は、大きな括りではなく小さな規模のものがあちこちでできていく形が良いでしょう。

### 「空き家の活用・高齢者の居住支援」

露木 尚文さん（住宅・都市問題研究所代表取締役）



空き家をコーディネートすることによって住まいの確保に困っている世帯の居住の場を作り出す取り組みは、空き家＝(イコール)利活用可能とはいかず、人に貸すことへのリスクや、固定資産税が上がったり最悪の場合行政措置として空き家を撤去することができるなどの理由から、利活用に前向きな所有者は多くありません。そのような状況で空き家活用は待っていても進みません。じっくり時間をかけて所有者や町会との関係をつくる事、そして支援活動のネットワークをさらに広げながら地道に居住支援の仕組みを広げていきたいと考えています。



豊島区居住支援協議会

住まいの確保に困っている世帯の居住の場を作り出す

豊島区居住支援協議会

シングルママのためのお部屋探し



★シェアすることでひとりあたりの家賃を安くする



家族的な住まい方の申請

認定審議会で内容を審議

家族的な住まい方として認定